

## 研究課題の名称

血管内治療後の皮膚灌流圧値の推移評価と虚血性潰瘍の治癒予測:多施設前向き研究

## 研究の目的及び意義

重症虚血肢に対する血管内治療(endovascular treatment: EVT)が積極的に行われている。虚血性潰瘍や壊死を治癒させるためには、十分な血流が必要であるが、その指標として皮膚灌流圧検査(Skin Perfusion Pressure: SPP)が広く用いられている。SPPが40mmHg以上であれば、治癒が得られるとされているが、これまで単施設後ろ向き研究しかない。また治療直後は血管収縮などの影響で、SPPは低値を示し、収縮の解除と共に経時的に上昇して行く可能性があるが、治療後のSPP値の推移は明らかにされていない。今回の多施設前向き研究ではEVT後、SPPを複数回記録し、SPPの推移と虚血性潰瘍の治癒との関連を明らかにする。

## 研究対象者の選定方針

当院当科で血管内治療を予定している重症虚血肢患者のうち、除外基準に当てはまらず、かつ不参加を表明されなかった患者を対象とする

研究予定期間承認日(2018年2月15日)から西暦2019年6月30日(登録は2018年12月末日まで)